学長挨拶

〇この度は、岐阜県立郡上北高等学校と岐阜女子大学が高大連携の調印式を迎えるにあたってご挨拶させていただきます。

〇コロナ禍が教育のデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）を加速する中，本学は，ニューノーマル時代に求められる学びの在り方に対応するため，様々な大学改革を不断に実行してまいりました。

〇特に、平成29年度より3年間、本学では、私立大学研究ブランディング事業「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業」において、飛騨高山匠の技と郡上白山文化遺産を対象にして、15万件以上の静止画・資料・動画を収集整理し、シソーラス、索引語の整理などの「地域資源デジタルアーカイブ」の研究に対する必要な基礎データを準備してまいりました。

〇この，地域のデジタルアーカイブでは，自分の生まれた地域のさまざまな地域資源などをデジタルアーカイブすることにより，これまでに気付かなかったさまざまなものが，素材を通して見えるようになります。

〇そのような意味で、この地域資源デジタルアーカイブは，このように地域のさまざまなことを再発見し，理解を深めていく上で大切な教育活動であると考えています。

〇また，この地域資源デジタルアーカイブには，地域の人々の参加が必要となってきます。特に，地域の資料の収集，デジタル化には，地域の実情に応じた活動が重要で，今後，地域住民たちが身近な場で地域のデジタルアーカイブをすべきだと考えています。

〇このためには，地域住民自らが自分たちの「地域資源」としていかに主体的に発見・収集・整理することできるかが課題です。

〇この度の高大連携における大学と高等学校との「共創」によるデジタルアーカイブの活動を，新しい学びの一環として捉えることは重要です。

〇ここでの「共創」とは、多様な立場の人たちと対話しながら、新しい価値を「共」に「創」り上げていくことです。

〇デジタルアーカイブは，単なる記録ではなくて，研究成果，「知」を集積することがデジタルアーカイブに問われています。

〇あらゆる地域が地域としてのアイデンティティを確立するためにも，「知」の拠点としての地域資源デジタルアーカイブを含めた総合的なデジタルアーカイブを構築することが求められています。

〇令和4年から高等学校に実施される学習指導要領では、課題探求型の学びが求められています。郡上北高等学校と岐阜女子大学のデジタルアーカイブ連携講座践は、この課題探求型の学習の全国のモデルとなりうると考えています。

〇これからの学びは、「競争」から「共創」の学びに着実に変化していきます。これからの高校生にも課題探求という研究的な学びを、大学と高等学校が連携し、お互いに対話しながら、新しい価値を「共」に「創」り上げていきたいと思います。

〇本日は、岐阜県立郡上北高等学校の多くの先生方並びにここに参加いただいております生徒の代表の皆様に今回の高大連携へのご協力にお礼を申し上げると同時に、今後ますますこの連携の絆が強くなりますことを期待いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。